

親子の会話に関するマーケティングデータ
～ 小学校高学年編 ～

朝日大学マーケティング研究所

調査概要

調査方法 Webアンケート

調査期間 2009年2月6日(金)～2月10日(火)

調査対象 現在小学4～6年生の子供を持つ、首都圏在住の28歳～54歳の既婚女性

有効回答 447名

		子供の性別	
		男の子	女の子
子供の学年	小学4年生	66	70
	小学5年生	72	82
	小学6年生	70	87
	計	208	239

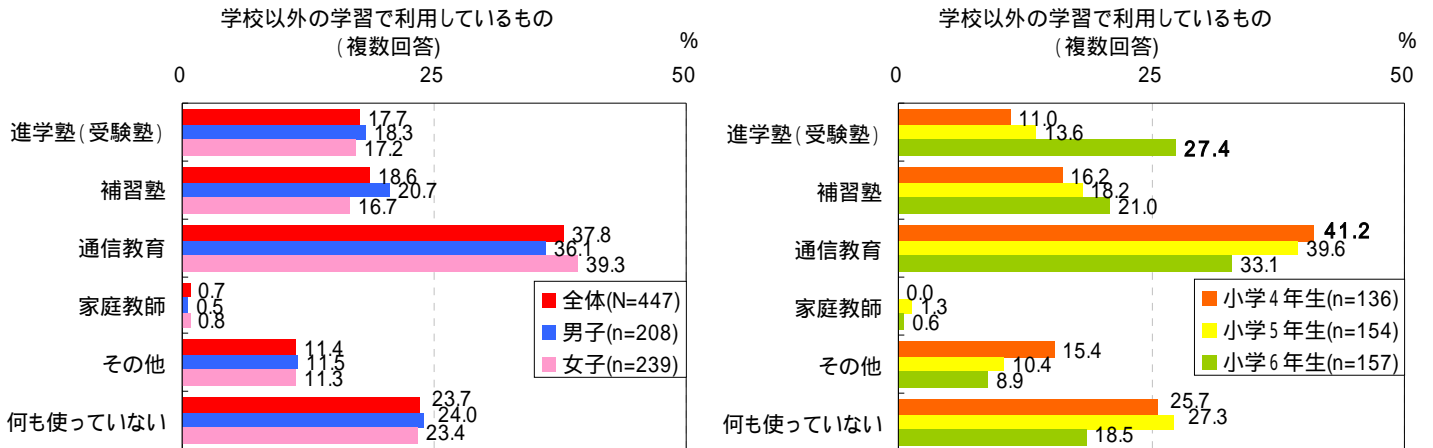
1. 子供の校外学習について

小学校高学年の約4分の3は校外学習を利用。娘より息子を持つ母親の方が勉強への関与が強い

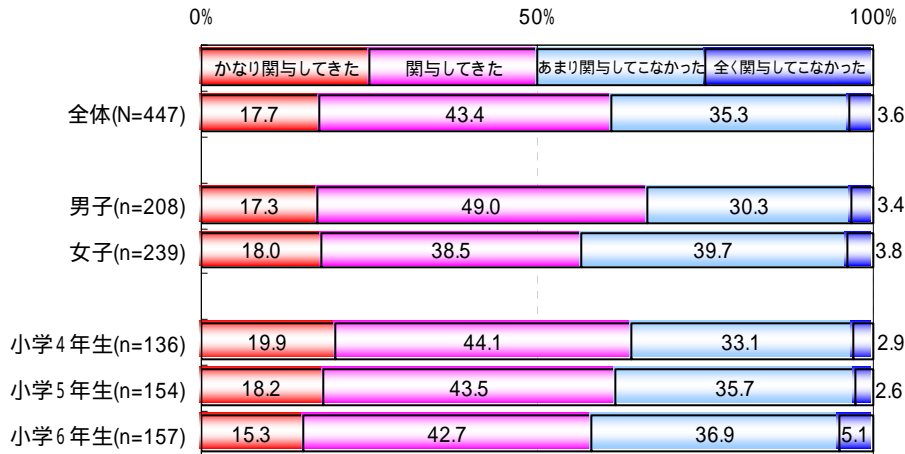
学校以外の学習(校外学習)を何も利用していない人は23.7%。全体の4分の3以上が校外学習をしていることになる。利用しているものの中で最も多いのは「通信教育」(37.8%)。通信教育の利用者は、学年が上がる毎に低下し、逆に「進学塾(受験塾)」の割合が高まる。小学4年生では1割なのに対し、小学6年生では3割近くに達している。

子供の勉強にこの1年間どの程度関与してきたかについて、「関与してきた」と回答した母親は61.1%('かなり関与してきた'17.7% + '関与してきた'43.4%)。

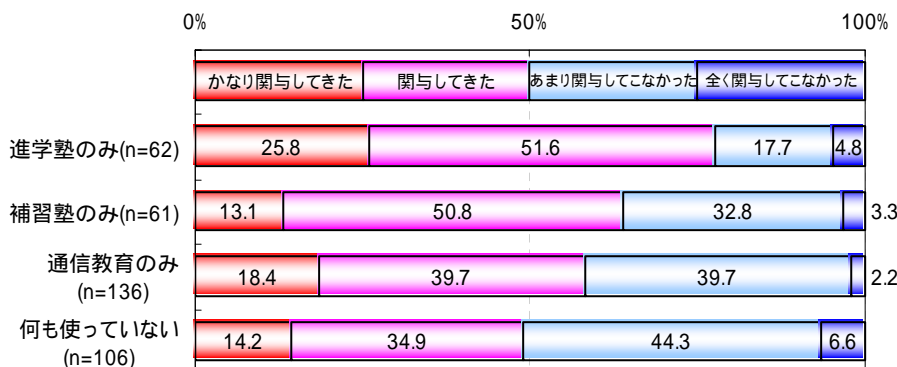
子供の性別でみると、女子より男子の勉強に関与している割合が高い。学年別では、学年が上がる毎に、わずかではあるが関与が減っている。校外学習別にみると、「進学塾のみ」の人は関与している割合が圧倒的に高いが、何も使っていない場合、子供の勉強に関与している割合は半数にも満たない。



子供の勉強にこの1年間どの程度関与してきたか (全体、性別、学年別)



子供の勉強にこの1年間どの程度関与してきたか (校外学習別)



校外学習複数利用者は除く

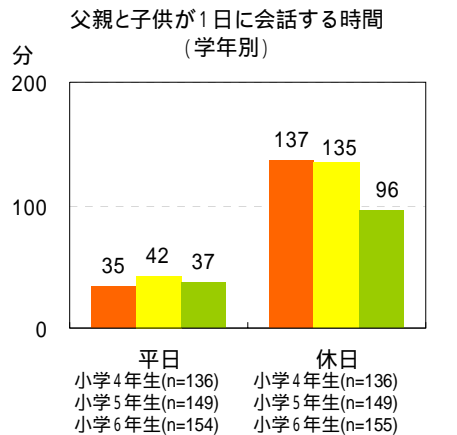
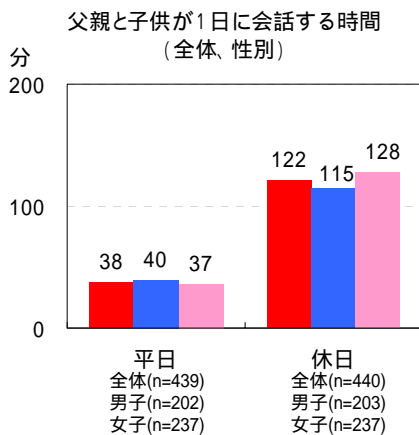
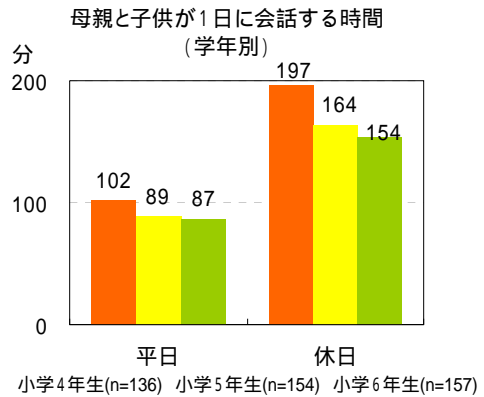
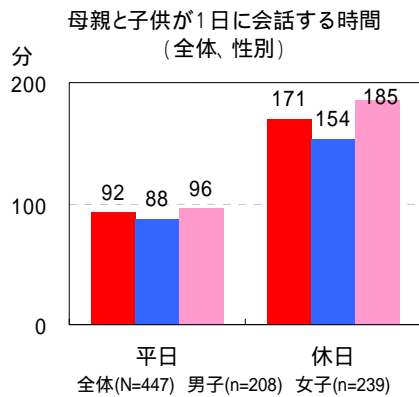
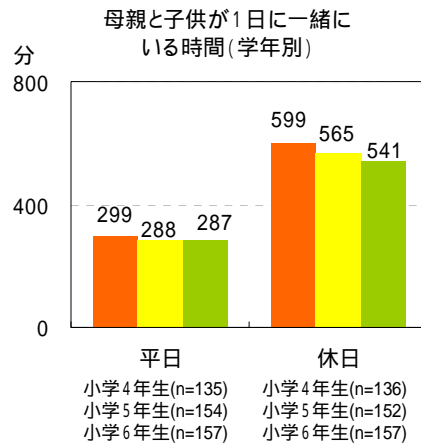
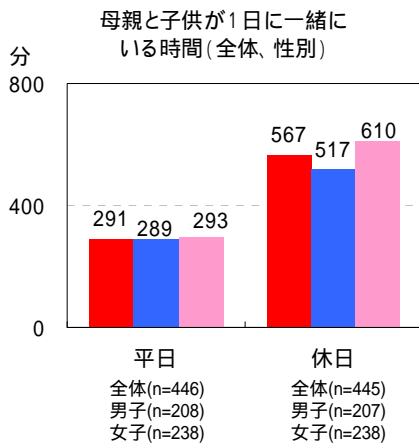
2. 子供と両親の会話時間について

一緒にいる時間や会話時間が長いのは女子で、特に休日に顕著。学年が上がる毎に休日の会話時間は減っていく

母親が子供と一緒にいる時間は、平日平均291分、休日平均567分。性別でみると、平日ではほとんど違いはみられないが、休日では女子が平均610分と、男子に比べて1時間半以上長い。学年別にみると、平日では大きな差はないが、休日では学年が上がる毎に一緒にいる時間が短くなる。

母親と子供の会話時間は、平日平均92分、休日平均171分。性別でみると、平日の会話時間には10分も差がないが、休日は女子の方が30分ほど長い。学年別にみると、母親と一緒にいる時間と同様、学年が上がる毎に会話時間も短くなっており、特に休日では、小学4年生と6年生に40分以上の差がある。

父親と子供の会話時間は、平日平均38分、休日平均122分。平日の会話時間は特に短く、母親と子供の会話時間と比較すると半分以下である。学年別にみると、小学6年生において、休日の会話時間が著しく短い(平均96分)。進学塾への通塾の影響が大きいと思われる。



■ 全体 ■ 男子 ■ 女子

■ 小学4年生 ■ 小学5年生 ■ 小学6年生

自由筆記のため、有効回答者数がそれぞれ異なります

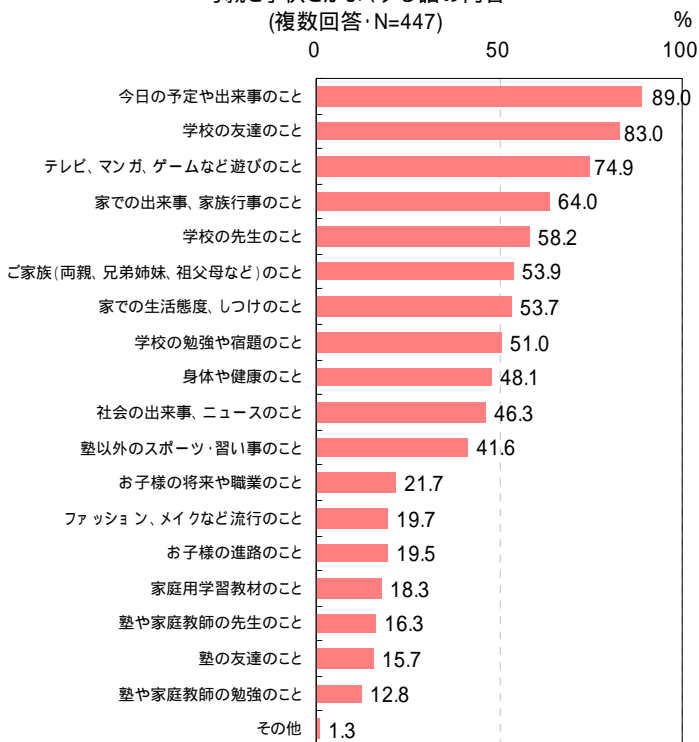
3. 母親と子供がよく会話する内容や時間帯

母親と子供とは、夕食中に「今日の予定や出来事」、あるいは「学校の友達」について話すことが多い

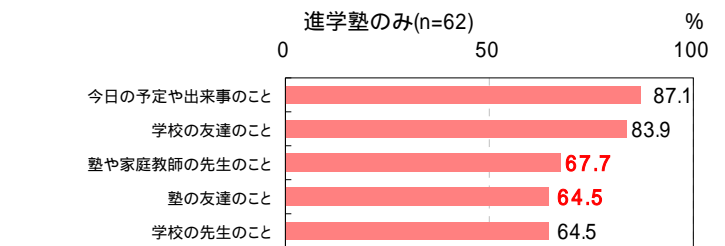
母親と子供とがよくする話の内容として最も多いのは、「今日の予定や出来事のこと」で89.0%。次いで、「学校の友達のこと」(83.0%)、「テレビ、マンガ、ゲームなど遊びのこと」(74.9%)と続く。校外学習別にみると、進学塾のみ利用者では、「塾や家庭教師の先生のこと」「塾の友達のこと」が3位と4位に食い込んでいるが、補習塾のみ利用者では上位5位には入らない。進学塾以外では「テレビ、マンガ、ゲームなど遊びのこと」を話す機会が多いという人が7割を超え、3位である。

母親と子供がよく会話するのは「夕食中」が最も多く、8割を超える。次いで「家族団樂のとき」(75.6%)、「帰宅から夕食までの時間」(70.0%)、「休日、一緒に自宅にいるとき」(62.6%)が続く。性別でみると、女子は休日一緒に自宅にいるときだけでなく、一緒に出かけているときもよく会話している(59.4%)。

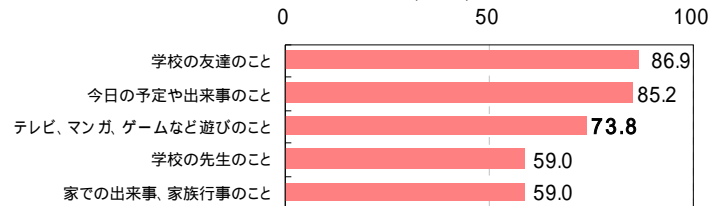
母親と子供とがよくする話の内容
(複数回答・N=447)



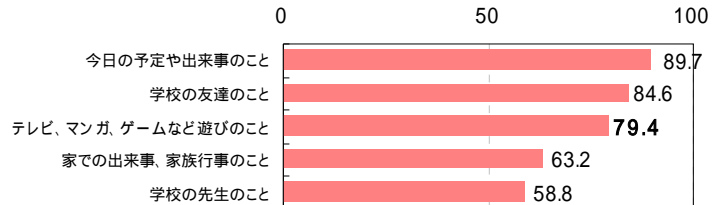
母親と子供とがよくする話の内容・上位5位(校外学習別)



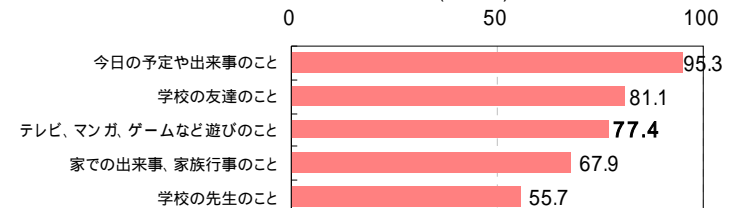
補習塾のみ(n=61)



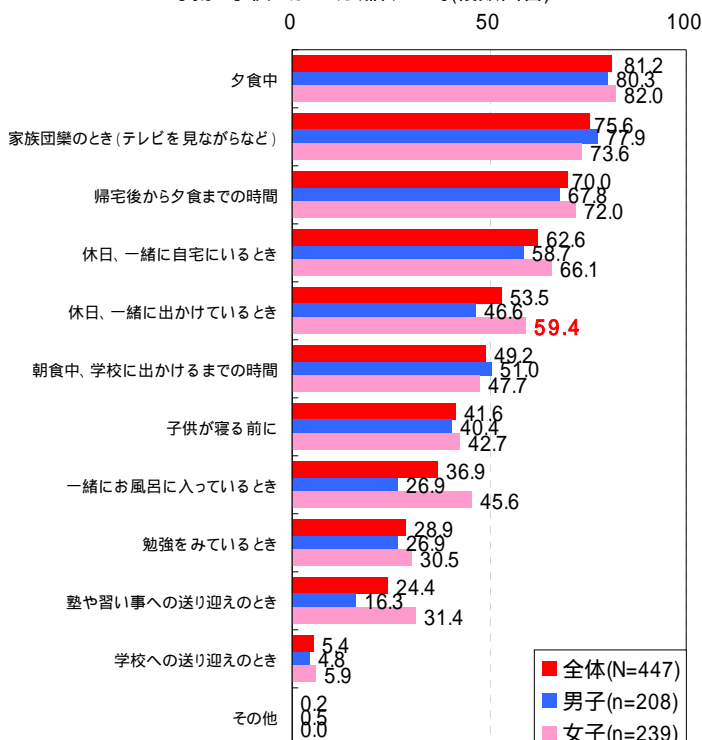
通信教育のみ(n=136)



何も使っていない(n=106)



母親と子供とがよく会話する時(複数回答)



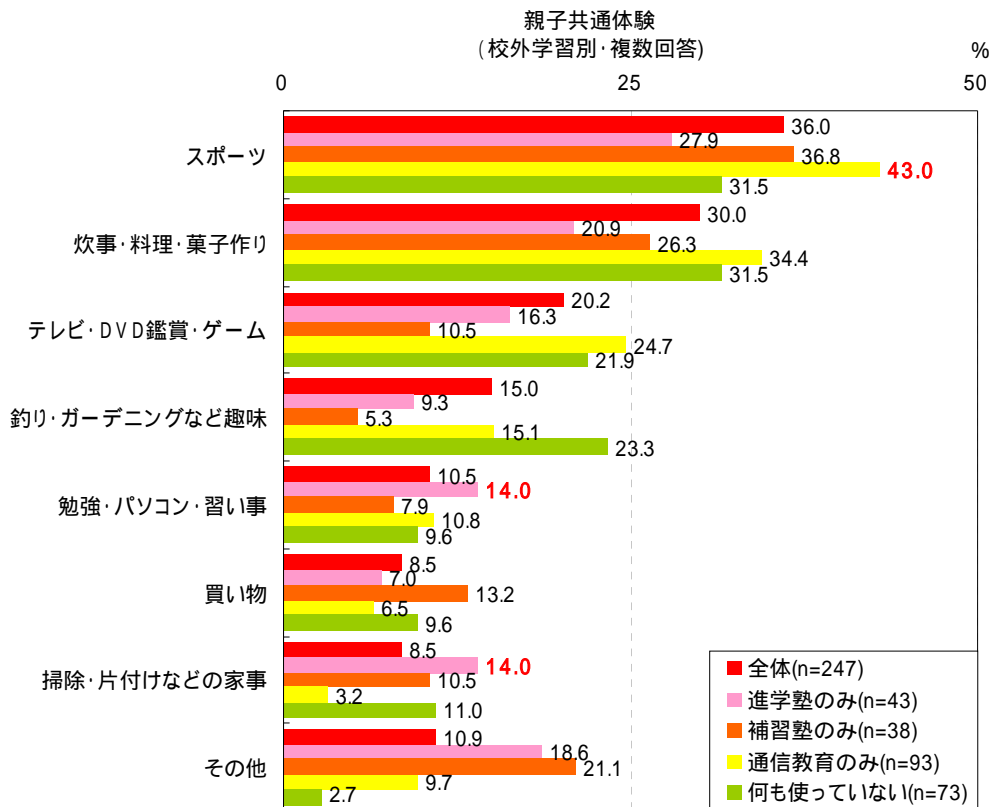
4. 親子での共通体験について

親子での共通体験が多いのは「スポーツ」、進学塾のみ利用者は、親子でも勉強や家事を行っている人が多い

親子一緒にやっていること(親子共通体験)を自由筆記で回答してもらったところ、最も多く挙げたのは「スポーツ」で、校外学習利用者全体の3分の1を超える。通信教育のみ利用者では43.0%と、進学塾のみ利用者の約1.5倍に上った。特に多いのは「野球」、「スキー」、「バスケットボール(ミニバス)」など。「ゴルフ」は進学塾のみ利用者のみみられた。

「炊事・料理・菓子作り」、「テレビ・DVD鑑賞・ゲーム」に関しては、通信教育のみ利用者の割合が高いが、「勉強・パソコン・習い事」、「掃除・片付けなどの家事」は進学塾のみ利用者に多くみられた。「勉強・パソコン・習い事」の具体例としては「塾の勉強の答え合わせ」、「ピアノのレッスン」、「最近まで受験勉強をしていたので、受験にむけて一緒にがんばった」などがあった。

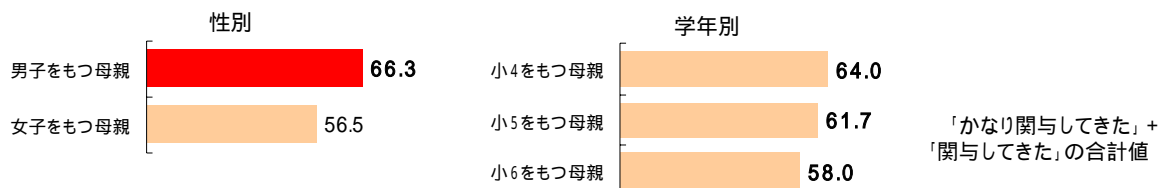
また、校外学習を何も使っていない人は、「釣り・ガーデニングなどの趣味」の割合が校外学習利用者に比べて高く、具体的には「手芸」や「キャンプ」を挙げた人が多かった。



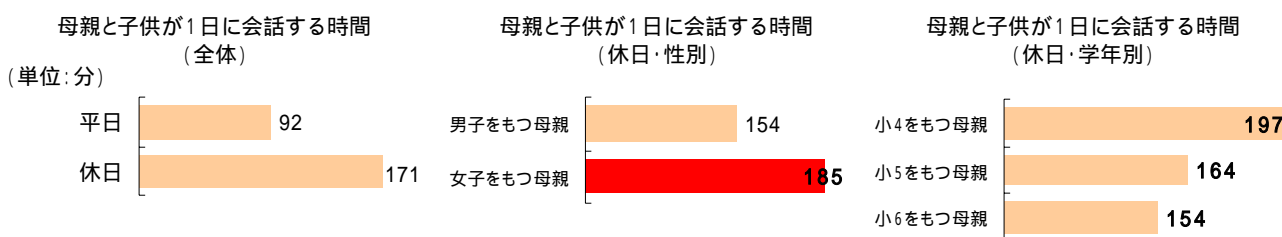
データの総括

小学校高学年の子供の勉強に強く関与しているのは、女の子より男の子を持つ母親に多い。一方、学年が上がるにつれ、あまり関与しなくなる母親が増える。

子供の勉強にこの1年間関与してきた母親の割合 (%)



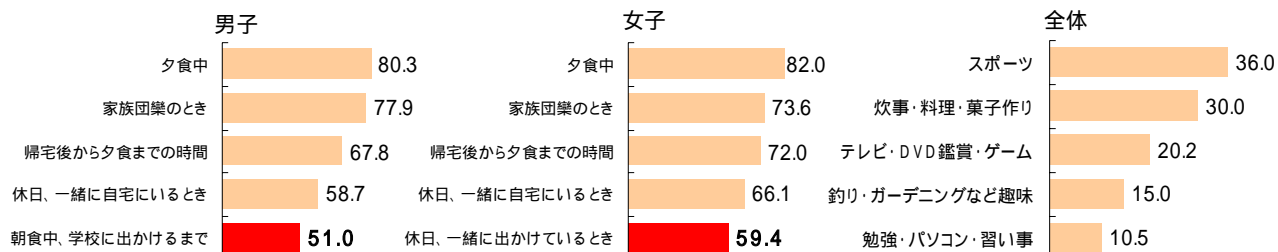
母親と小学校高学年の子供が1日に会話する時間は、平日で平均約1時間30分、休日で平均約2時間50分程度。ただし、休日は男子より女子の会話時間が多く、30分以上の差がある。また、学年が上がる毎に、休日の会話時間は著しく減少する。



母親と小学校高学年の子供がよく会話するのは、夕食中や家族団楽のとき。男子は朝食中や学校に出かけるまでの時間、女子は休日一緒に出かけているときも母親との会話が多い。また、親子一緒に体験することが多いのは、野球やスキー等のスポーツ、料理・お菓子作りなどである。

母親と子供とがよく会話する時・上位5位 (%)

親子での共通体験・上位5位 (%)



事実から推測される仮説

小学校高学年になると、様々な面で親と子の関わりに変化が生じてくる。進学塾に通う子を持つ家庭では子供に対する関与が強くなる一方、校外学習で特に何もしていない子供の家庭では親の関与が薄くなるなど、校外学習によって、親の勉強への関与に大きな違いがみられるようになる。会話時間も、女の子は休日などに母親との会話時間が多いが、男の子は学年が上がるにつれて会話時間が減少するなど、家庭によって親子の接点に変化が生じてくる。この時期に、どのように子供との接点を持つか、どのような校外学習を選択するか、重要な分岐点である。

母親との会話は、帰宅後から夕食を挟んでその後の団楽までが多く、まさにテレビのゴールデンタイムに合致する。女の子の場合、休日と一緒にショッピングにでかけている時、あるいは、一緒にお風呂に入っている時など、母親との接点にバリエーションがあるが、男の子の場合は、夕食前後のメインの会話タイムが中心となっている。日常的な母子の会話も重要であるが、スポーツ、料理・お菓子作り、掃除などの家事などを一緒に行なう共通体験は、親子のコミュニケーションを深める。日頃、ゴールデンタイムに自宅にいない父親などは、子供とスポーツを楽しんだり、毎日継続的にできる家事(配膳や食器洗いなど)を一緒に行なうことも会話時間を増やすのに役立っている。

トピックスリサーチ

親子の会話に関するマーケティングデータ

～ 小学校高学年編 ～

発行日 2009年3月17日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp